

2023年(令和5年) 12月16日 土曜日

デーリー東北 13面 掲載



児童たちのキャッチボールを見守る松山晋也選手(中央)

プロの指導で技術磨く

小中学生
野球教室

れ、キャッチボールや打
撃、守備の練習を行った。
松山、塙見両選手がキ

プロ野球中日の松山晋也投手(23)=七戸町出身、八戸学院大出身=らを講師に招いた野球教室が10日、八戸市美保野の八戸学院室内練習場で開かれた。参加した市内の小学生59人が、最速15

6キロの直球を武器に、育成契約から一気に1軍の中心選手に飛躍したプロの技術に目を輝かせた。

学校法人光星学院スポーツ局主催。講師は松山選手のほか、いずれも八戸大(当時)出身で、9日に現役引退を表明した元楽天の塙見貴洋投手、元西武外野手の田代将太郎さん。準備運動の後、

6キロの直球を武器に、育成契約から一気に1軍の中心選手に飛躍したプロの技術に目を輝かせた。

藤大貴君(11)は「足を踏み出してボールを投げるやり方が勉強になつた。僕も力強い球を投げたい」と笑顔。

松山選手は、来季は50試合登板が目標=と話した上で、「子どもたちから野球に真摯に取り組む姿勢を改めて学んだ」と振り返った。

中日・松山投手(七戸出身)ら講師に

小学生と中学生に分かれて、キャッチボールや打撃、守備の練習を行つた。松山、塙見両選手がキヤツチボールの指導に当たり、参加者にステップの踏み方や捕球の仕方を教えた。両選手によるキヤツチボールも披露され、松山選手の剛球を目の前で見た子どもたちが歓声を上げていた。

市立旭ヶ丘小6年の加藤大貴君(11)は「足を踏み出してボールを投げるやり方が勉強になつた。僕も力強い球を投げたい」と笑顔。

松山選手は、来季は50試合登板が目標=と話した上で、「子どもたちから野球に真摯に取り組む姿勢を改めて学んだ」と振り返った。

(磯野雄太郎)